

患者ID:@PATIENTID

2016.2.12作成

@PATIENTNAME 様

胃化療（カペシタビン+トラスツズマブ療法）

2024.8.7改訂

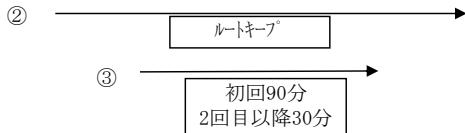
指示者	@USERNAME
コース数	

身長	\$HEIGHT01_Doc	cm
体重	\$WEIGHT01_Doc	kg
体表面積	#VALUE!	m <sup>2</sup>

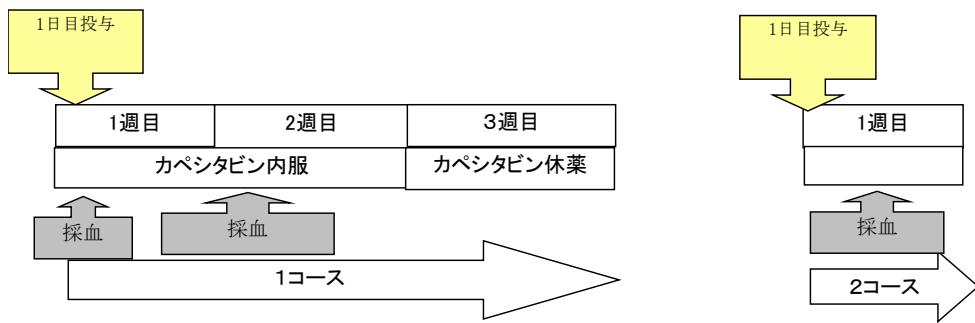
	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路	
①	カペシタビン(300mg) ( #VALUE! )mg/body 2× 朝( #VALUE! )mg 夕( #VALUE! )mg <small>計算値 最小単位300mg</small> <small>投与量は下の表を参考にして下さい</small>	2週間内服 (day1-14)	内服	カペシタビン服用開始 (2週間服用 1週間休み)
②	生食100mL	ルートキープ	点滴	
④	生食250mL トラスツズマブ8mg/kg(初回のみ) トラスツズマブ6mg/kg(2回目以降) ( #VALUE! )mg/body <small>最小単位10mg</small> <small>計算値 初回 #VALUE! 2回目以降</small>	初回90分 2回目以降30分	点滴	

day1

カペシタビン内服開始(2週間服用1週間休薬)



## スケジュール



## 治療成績 TOGA試験

図1 全生存期間

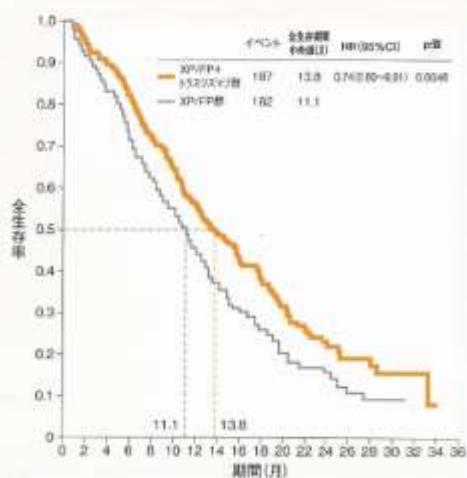
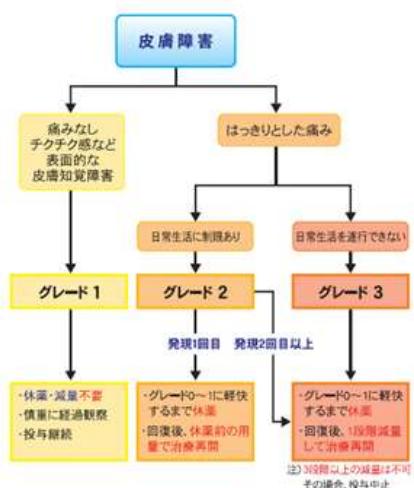
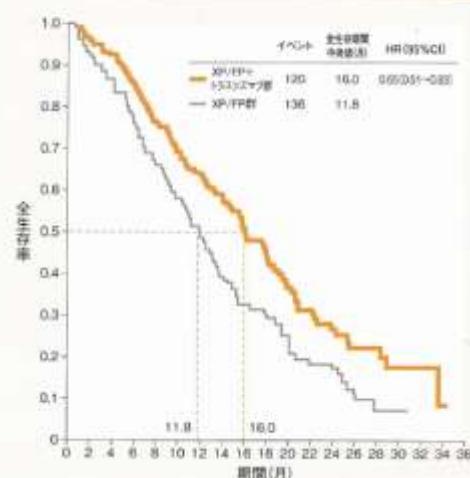


図2 HER2発現レベルが高い患者における全生存期間(探索的解析)



(ゼローダの減量時1回投与量)

体表面積	1回投与量(錠数) 1日投与量(錠数)		
	初回投与量	減量段階1	減量段階2
1.36m <sup>2</sup> 未満	1,200mg (4錠) 2,400mg (8錠)	900mg (3錠) 1,800mg (6錠)	600mg (2錠) 1,200mg (4錠)
1.36m <sup>2</sup> 以上 1.41m <sup>2</sup> 未満	1,500mg (5錠) 3,000mg (10錠)	1,200mg (4錠) 2,400mg (8錠)	900mg (3錠) 1,800mg (6錠)
1.41m <sup>2</sup> 以上 1.51m <sup>2</sup> 未満			
1.51m <sup>2</sup> 以上 1.66m <sup>2</sup> 未満	1,800mg (6錠) 3,600mg (12錠)	1,500mg (5錠) 3,000mg (10錠)	1,200mg (4錠) 2,400mg (8錠)
1.66m <sup>2</sup> 以上 1.81m <sup>2</sup> 未満			
1.81m <sup>2</sup> 以上 1.96m <sup>2</sup> 未満	2,100mg (7錠) 4,200mg (14錠)	1,800mg (6錠) 3,600mg (12錠)	1,200mg (4錠) 2,400mg (8錠)
1.96m <sup>2</sup> 以上 2.11m <sup>2</sup> 未満			
2.11m <sup>2</sup> 以上			

## V 症状別対処法

症 状	対 処 法	注意 点
色素沈着	処置の必要なし	日焼けは避ける
紅斑、腫脹	患部を冷やす。炎症がある場合はステロイド外用剤または消炎剤の内服薬を服用する	患部を温めない
皮膚の硬化	保湿(にまめにクリームを塗る)	
亀裂(ひび割れ)	保湿剤とステロイド外用剤による局所療法。亀裂部分には軟膏を厚めに塗る。患部に過度な圧力・摩擦をかけない	
落屑	軽症のうちは保湿剤のみ、有痛性の場合は保湿剤とステロイド外用剤による局所療法	
水疱	有痛性の場合は保湿剤とステロイド外用剤による局所療法。水疱が破れた場合にもできるだけ水疱蓋を残し、その上からステロイド外用剤を塗り、冷やす	患部を温めない
ひらん、潰瘍	保湿剤とステロイド外用剤による局所療法、二次感染に留意しながら皮膚を清潔に保つように心がける	患部を温めない
爪の症状	変色・変形のみの場合は無処置、有痛性の場合はステロイド外用剤による局所療法	

## V-2 使用薬剤

### 【局所治療】

種類	薬剤名
尿素含有剤	ウレバール <sup>®</sup> ケラチナミン <sup>®</sup> バスタロン <sup>®</sup> など
ペノリン既成物質 含有剤	ヒルドイド <sup>®</sup> ヒルドイドソフト <sup>®</sup> など
ビタミン含有軟膏	ザーネ <sup>®</sup> (ビタミンA含有) ユベラ <sup>®</sup> (ビタミンE含有) など
グアイアズシン 含有軟膏	アズノール <sup>®</sup>
白色ワセリン	
ステロイド外用剤 (strong以上を推奨)	デルモベート <sup>®</sup> シフラー <sup>®</sup> アンチバート <sup>®</sup> マイザード <sup>®</sup> リンドテロン <sup>®</sup> など

### 【軟膏】「クリーム」

### 【ローション】の 使い分け

- ・基本的に「軟膏」(ワセリン基材)を用いる
- ・「クリーム」は防腐剤を含むし刺激が強い、退院直には使用できない
- ・「ローション」は透り心地がよいが軟膏に比べて持続性で劣る

・シャワー・入浴後など、皮膚が湿っている(乾燥していない)状態である  
・使用薬剤は、患者さんに合ったものを使う

### 【全身療法】

種類	薬剤名
非ステロイド性消炎鎮痛剤 (内服)	ロキソニン <sup>®</sup> ボルケレン <sup>®</sup> など

※各薬剤の使用に関しては添付文書をご参照ください。